

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	岡山県	事業実施主体	岡山県、津山市	地域再生計画名	津山市「光る水しぶき、自然ゆたかな環境共生都市再生計画」
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	津山市 都市建設部 部長 岡部 卓史		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	汚水処理人口普及率を54.7%から60.1%に向上	54.7%	H26	57.0%	H29	58.0%	60.1%	H31	○	公共下水道整備や浄化槽設置の効果により、汚水処理人口普及率が増加した。
	指標2	放流河川水質の改善（BODを11から10に改善）	11mg/L	H26	10.5mg/L	H29	8.7mg/L	10	H31	○	指標となるBODは終末処理場の処理後の放流水の数値であり、終末処理場の放流水質が改善されたことにより、河川水質の改善が見込まれる。
	指標3	勝北地区の水洗化率を76.1%から87.1%に向上	76.1%	H26	82.7%	H29	75.7%	87.1%	H31	△	供用開始人口は増加しているものの、接続人口が想定より伸びず、目標値を下回った。今後は、広報誌や未接続世帯への接続促進のチラシの送付など普及促進活動を進めていく必要がある。

②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1										
	指標2										

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（H29）	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う事業	公共下水道事業（整備延長）※（ ）は交付金	4,500m (3,500m)	3,170m (2,630m)	5,300m (4,210m)	順調に整備を進め、最終実績は計画値を超える見込みである。今後も引き続き未整備地域の解消に向け、事業を実施していく。
	個人設置型浄化槽整備事業（整備基数）	1,500基	699基	1,198基	想定より設置希望者が少なく、整備が進まなかった。合併処理浄化槽の個人設置は多額の費用を要し、景気の動向にも左右される。今後は広報誌等を通じてより一層の水洗化啓蒙活動を図る。
その他の事業	美しい自然の形成に関する事業	年に各一回、市職員、地元町内会、ボランティアによる河川・道路清掃を実施			河川清掃については市職員、地元町内会、ボランティア総勢2,138名を動員し、16,950kgのゴミを収集した。道路清掃については市職員、地元町内会、ボランティア総勢1,805名を動員し、4,180kgのゴミを収集した。今後も引き続き自然景観の保全と再生に向け、事業実施を行いたい。
	快適空間の形成に関する事業	支所、公民館、中小学校、公園等に太陽光発電設置			環境基本計画等に基づき、公共施設への新エネルギーの導入や省エネルギーの推進を行っており、今後、公共施設の新設及び大規模改修時には、新エネルギーの導入及び省エネルギー機器の導入を行いたいと考えている。
	公共下水道事業	社会資本整備総合交付金を活用し、津山処理区公共下水道の整備を推進			勝北処理区と同様に、津山処理区でも公共下水道の整備延長を進めている。今後も適時事業認可区域の見直しを行いながら、事業を実施していきたいと考えている。
計画外で独自に実施した事業					

④評価方法 津山市地域再生計画事業評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。

⑤中間評価の公表方法 津山市下水道課のホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価 本地域再生計画では、地方創生汚水処理施設整備交付金を活用した公共下水道整備と個人設置型の浄化槽の設置を一体的に実施し、汚水処理人口普及率の増と放流河川の水質改善の効果をおおむね発現できたと考えている。しかし、水洗化率に関しては目標数値を達成できていない状況であるため、接続戸数の増加に向けさらなる普及促進を図る必要がある。

⑦今後の方針等 次期地域再生計画においては、市全域で効率的な汚水処理施設の整備促進を図るため、現在認可を受けている地域の公共下水道を整備するとともに、認可の拡大について適時に検討を行う。また公共下水道事業認可区域及び農業集落排水整備事業地区以外の区域については、合併処理浄化槽設置整備事業を推進し、汚水処理人口普及率を向上させ、安全で潤いのある美しい自然と快適空間が提供できるまちづくりを図る。